

クラス番号	630	担当教員名	小林 洋司
テーマ	社会問題に向き合うための<福祉>教育・<ボランティア>学習に関する研究		
著書・論文	「合理的配慮をめぐる対話を阻むもの―自己開示を可能にする条件の検討―」 「福祉科教育法と ESD 実践の接点-『福祉を教えること』に関する方法論的検討-」 「福祉教育・ボランティア学習としてのハンセン病問題学習の構築」		
研究課題等	「共生社会に向けた実践の課題―ハンセン病問題をてがかりに―」 など		

## ゼミナール概要

キーワード：福祉教育、ボランティア学習、人間の変容、社会運動

### 目的、内容、方法等：

本ゼミナールでは、人間が変わっていく過程に着目し、実践・研究を進めることを通して「社会づくり」を担っていく「人財」を育成していく条件や方法について考えることを目的とする。具体的には、以下のような学習目標を想定している。

- ①ひとつの問題が多くの問題とつながっていることについて考察を深めることができる。
- ②一つひとつの「いのち」の存在と実感を大切にできるようになる。
- ③受講者の「世界」が広がっていくこと

以上のような目標を達成するべく、研究や実践の理論及び手法に関する学習を進めていく。

授業計画： 詳細は未定であるが以下のような内容の学習を進めていく予定である。

- ・社会福祉問題・社会問題に関する基礎的学習
- ・福祉教育・ボランティア活動に関する学習
- ・出会いや学びを豊かにする「仕掛け」に関する学習
- ・難しいことがらを考え抜くための集団づくりに関する学習

その他、必要に応じていろいろな教育・学習の機会を考えています。  
教育・学習に限らず色々な関心をもちよることのできる演習になればと考えています。

※状況によりませんが、学校外学習はもとより、場合によっては合宿が含まれることがある。

## 担当教員からのメッセージ



わたしが専門としている領域は「教育・学習」論です。また、研究テーマとして取り組んでいるのはマイノリティ問題（病い、障害などなど）です。とりわけ、人がマイノリティ問題について学ぶ機会や、方法、意味や価値そのものについて関心をもっています。福祉と教育は関わりが薄いように思われる人もいるかもしれませんが、私はそうではないと考えています。ひとと、ひとのあいだを「むすんだり」、「ほぐしたり」、時には「むすんだり」「ほぐしたり」すること自体の意味を考えていくことは大変重要であると考えます。ゼミのメンバーとなる方々にもこのような課題に積極的に関心をもとうとする姿勢を求めます。

それほど楽ができるゼミではないかもしれませんが。しかし「広い意味でおもしろく、意味がある」時間を受講する皆さんと創っていきたいと思っています。

よろしく。